



高島市オリーブ栽培おすすめ品種紹介

高島市農業政策課

高島市では、国内のオリーブ主要産地である小豆島（香川県）で実績のある品種の栽培をお勧めしています。オリーブは、3年生の苗を植えた場合に、実が生り始めるまでに3年、一定量の収穫ができる成木になるまでに7～8年かかります。オリーブの苗木は、量販店でも多くの品種が販売されていますが、収穫目的の栽培実績がない品種をたくさん植えて、8年後に実がほとんど生らないということがないようにしなければなりません。

また、オリーブは、品種ごとに実の使用目的や樹形、病気に対する耐性などが異なります。栽培目的や土地の条件等により、最適な品種を選択してください。

その他、オリーブは自家結実性が低いことから、相性の良い品種を植えることが重要です。自家受粉可能と記載される品種もありますが、収穫量に顕著な違いがみられます。必ず2品種以上を植えるようにしてください。

直立性（ミッション） →



← 開張性（マンザニコ）

おすすめ品種一覧

①ミッション

- 原産地 : アメリカ合衆国
用途 : オイル用、テーブルオリーブ（塩漬け）用
果実 : 中（3 g 前後）
収穫量 : 10～20kg/本
交配品種 : ネバディロ・ブランコ、ルッカ
樹勢 : 強
樹形 : 直立性
特徴 : オイルおよびテーブルオリーブ兼用品種として優れており、国内最主要産地である小豆島での約70%を占めています。木の成長より、多くの実を生らすことを優先する傾向があり、爽やかな香り高いオイルを搾ることができ、歯触りの良いフレッシュな塩漬けになる万能品種です。ただし、炭疽病に弱いため、近年、小豆島では早い時期に収穫されるようになっていきます。高島市は降雨量が多いため、特に炭疽病に注意する必要があります。直立型で年々実が生る場所が高くなるため、高さを抑える剪定を心がけてください。



②ネバディロ・ブランコ

- 原産地 : スペイン
用途 : オイル用、テーブルオリーブ用、受粉用
果実 : 中（3 g 弱）
収穫量 : 5～20kg/本
交配品種 : ミッション、マンザニコ
樹勢 : 中
樹形 : 開張性
特徴 : 花粉が非常に多く、開花時期が長いことに加え、他の多くの品種との相性が良いことから、受粉樹として植栽されます。小豆島では、収穫されずに放置されることもあるようですが、近年は、オイルおよびテーブルオリーブ兼用種として見直されています。雨が多いと実をつけなかったり、原因不明で一部枯れたりするほか、炭疽病やオリーブアナアキゾウムシの被害も多めの品種です。挿し木の成功率が小豆島の品種の中では最も高く、自家増殖に向いています。



← 開張性（ネバティロ・ブランコ）

③マンザニロ

原産地 : スペイン
用途 : テーブルオリーブ用
果実 : 中 (3 g 前後)
収穫量 : 10 ~ 30 kg / 本
交配品種 : ネバディロ・ブランコ、ルッカ、

樹勢 : 弱

樹形 : 開張性

特徴 : 実が丸く (青りんごのような形) 大きく、品質も良好なことから、テーブルオリーブ用として使用されます。含油率が低いため、オイル用としてはあまり利用されていません。果肉が柔らかく、傷つきやすいので、果実の取り扱いには注意が必要です。水はけの悪い土地が特に苦手で、土地の選択または対策が重要となります。



④ルッカ

原産地 : アメリカ合衆国
用途 : オイル用
果実 : 小 (2 g 前後)
収穫量 : 10 ~ 20 kg / 本
交配品種 : ネバディロ・ブランコ、ミッション、
マンザニロ

樹勢 : 強

樹形 : 開張性

特徴 : 耐寒性、耐病性に優れていて、炭疽病の影響を受けにくいことが特徴です。樹勢が非常に強く、大木になるため、剪定による管理が重要になります。実が生り始めるまで5 ~ 6年かかり、他の品種に比べ時間がかかります。実が小さめなので収穫効率はあまり良くありませんが、油分率が高いためオイルを多く搾れます。



← 開張性 (ルッカ)

⑤ レッチーノ

原産地 : イタリア

用途 : オイル用

果実 : 小 (2 g 前後)

交配品種 : フラントイオ、マウリーノ

樹勢 : 強

樹形 : 開張性

特徴 : 世界各地で栽培されているオイル用品種です。樹勢が非常に強く、生長も早く、大木になる品種です。また、寒さや炭疽病に強いという長所を持っています。収穫量については、情報がまだ少ないため、はっきりとした記載はできませんが、小豆島の一部の農園では、多くの収穫が得られています。3品種以上での混植を推奨します。



⑥ アルベキーナ

原産地 : スペイン

用途 : オイル用

果実 : 極小 (1.5 g 前後)

交配品種 : 不要 (下記参照)

樹勢 : 弱

樹形 : 開張型

特徴 : コンパクトな樹形で、結実開始年齢が早く、収穫量が非常に多いことが特徴です。実をつけすぎて大きくなることが難点であり、強みでもあります。収穫量については、情報がまだ少ないため、はっきりとした記載はできませんが、小豆島の一部の農園では、多くの収穫量が得られています。世界的には本種のみで植栽することが主流です。早期結実性があるため、受粉樹を植えてもその花が咲くよりも先に本種の花が咲き、実をつけるといった現象が起きる可能性があります。最近では、マンザニロやピクアルと混植すると収量が増えるという報告もあります。

